

大阪を代表する里山里海を フィールドにした未来社会のデザイン 共創プレイス・阪南

大阪府 阪南市

阪南市



ONE ACTION

👟👟 ~時代の1歩先をゆくまち~

- ・市制施行：平成3年10月1日（大阪府内で一番新しい市）
- ・人口：50,934人（令和5年9月末日現在）
- ・大阪で一番南の市
- ・大阪市内まで電車で約40分
- ・関西国際空港から約20分



プレイヤー



フィールド

里山



里海



「TEAM EXPO 2025」プログラム

共創パートナー

大阪を代表する里山里海をフィールドにした未来社会のデザイン 共創プレイス・阪南

大阪・関西万博会場がある大阪湾で取り組む海洋教育・ブルーカーボンなどの共創の取組が全国や世界へ発信されるとともに、より多くの未来社会へ向けての共創チャレンジが阪南市で展開されていくよう、阪南市が有する里山・里海、それらに関する地域資源などを実証フィールドとして提供することで、環境保全活動などに取り組む企業や団体などのチャレンジを支援しています。

全国で3番目の
自治体として登録



共創チャレンジ

37件の共創チャレンジが活動中 ※2023.11.30時点



「TEAM EXPO 2025」プログラム

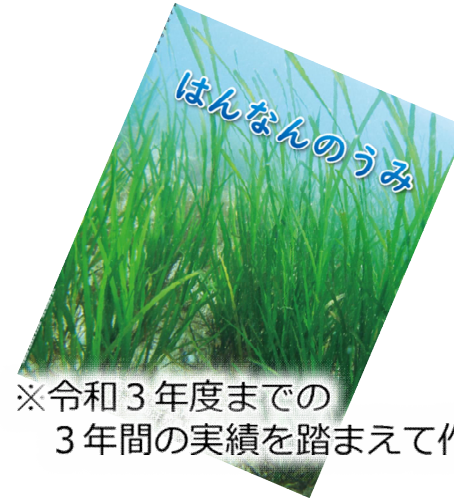
共創チャレンジ

海のゆりかご再生活動！

- 海とふれあい、海を学ぶことで地域の環境に関心を持つとともに、地域の人と共に活動を行い、地域の一員としての自覚を育む活動を実施。
- 生物多様性の向上や生物資源の増加、漁業を含めた地域の活性化に取り組む。



※令和3年度までの
3年間の実績を踏まえて作成



全小学校で
環境・海洋をテーマに
探求型協働学習



SDGs未来都市・自治体モデル事業に選定

2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要

事業名：共創による新しい価値の創造 カーボンニュートラルの先にあるCo-ベネフィット型未来都市に向けて 提案者名：大阪府阪南市

取組内容の概要：農空間や海浜空間といった地域資源を活かし、カーボンニュートラルの取組を通じて様々なCo-ベネフィット（恩恵）を創出することで、関係・交流人口を増やし、消費の拡大につなげる。環境にやさしいまちに集まった人々が、健康でウェルビーイング（持続的幸福感）を感じられる取組を推進し、持続可能で好循環な地域づくりの実現を図る。



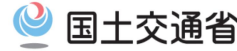
令和4年5月20日付けで国より選定



阪南市SDGs未来都市計画

アマモ場（漁場）再生によるブルーカーボンを活用したカーボンニュートラルの取組

ブルーカーボンとは



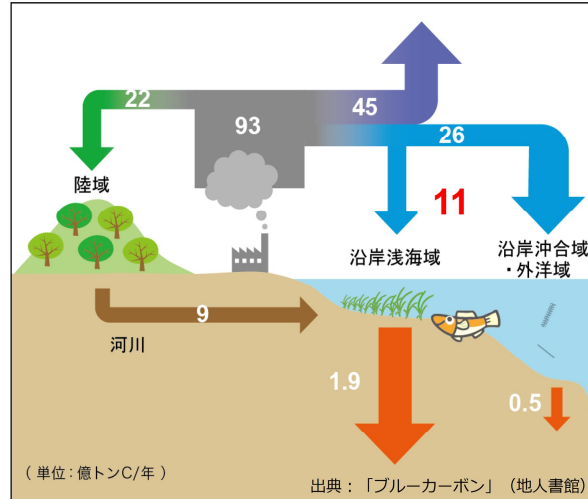
- ◆ 2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、**海洋生態系に取り込まれた（captured）炭素が「ブルーカーボン」と命名**され、吸収源対策の新しい選択肢として提示
- ◆ 四方を海に囲まれた日本にとって、沿岸域の吸収源としてのポテンシャルは大きい。ブルーカーボンの活用にあたっては、その評価方法や技術開発の確立が重要

国連環境計画（UNEP）の報告書「ブルーカーボン」



海表面の0.2%程度にあたる沿岸浅海域では、炭素が1.9億t-C/年（地球全体の80%近く）の速さで海底に貯留

炭素循環のイメージ



排出された二酸化炭素のうち、一部が陸域（22億t-C/年）や海洋（26億t-C/年）に吸収

出典：ジャパブルーエコノミー技術研究組合資料

アマモ場再生活動の一年

春: アマモの花, アマモ花枝採取, アマモの種, アマモ花枝選別

夏: 花枝の再生, アマモ種子選別

秋: コウイカの卵, アマモ苗床づくり

冬: アマモの苗, アマモ播種（種まき）

移植アマモ, アマモ苗移植

「TEAM EXPO 2025」プログラム

共創チャレンジ

阪南の海・大阪湾の環境を守り、次世代につなげる『阪南セブンの海の森』づくり



- 2018年に一般財団法人セブン-イレブン記念財団と協定を締結。
- アマモ場の保護保全活動と沿岸清掃活動を行う『阪南セブンの海の森』プロジェクトを実施。

令和5年6月3日



福島海岸で海岸清掃



西鳥取海岸でアマモの花枝採取、生き物観察



自然共生サイト認定・OECM登録！

- ◆申請サイト名：阪南セブンの海の森
- ◆申請組織：一般財団法人セブン-イレブン記念財団
阪南市
NPO法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター
- ◆申請面積：約40.17 ha

令和5年7月26日



環境省が、**生物多様性へ保全区域、122カ所**を認定

沿岸域・自然系海岸（藻場）の自然共生サイトに 自治体として唯一認定！

30by30アライアンスとは

- ◆30by30 = 2030年までに**陸と海**の30%以上を保全する目標
(日本の保全面積：**陸域20.5%** **海域13.3%**)
- ◆OECM = 法令によって守られる保護地域でなく人びとの生業や民間の自発的な取組によって自然が守られている地域を自然共生サイトとして認定。



※イメージ
枠の大きさは割合を示さない

OECM (Other Effective area-based Conservation Measures) 企業の自然共生サイトのイメージ
出典：環境省

「TEAM EXPO 2025」プログラム

共創チャレンジ

大阪湾の海の森（藻場）保全・再生プロジェクト



- 大阪湾に面する仲間として、地域と空港間での海藻移植や藻場造成のための知見の共有により大阪湾の価値の向上や、海洋環境向上に向けた次世代への教育に共に取り組む。



令和5年4月25日



令和5年7月26日



今後の展開と企業等への期待

阪南市

- 共創パートナー：阪南市をフィールドに共創チャレンジを創出・支援
共創の取組を全国・世界へ展開できるように情報発信 等
- 共創チャレンジ：企業や団体等と共創チャレンジの取組を展開

共創を希望する相手

- ◆ 里山里海をフィールドに生物多様性の向上や、環境保全活動に取り組む
企業・団体 など

▽環境を守り、海山の豊かな暮らし・営みが体現できるCo-ベネフィット未来都市を実現
▽SDGs達成の貢献と、大阪・関西万博のテーマの実現